

相続・事業承継 の一例

民事関係ケーススタディ
紙芝居

事業承継マンガ教材



こちらは、A君です。

A君の祖父、おじいさんは、昔、地元で建設会社を作り、現在は二代目であるA君の父親がBさんがその建設会社の社長を務めています。つい先日、この建設会社の会長を務めていたA君の祖父、おじいさんが亡くなり、相続問題が発生していました。



こちらが、A君のお父さんのBさんです。
なにやら、とても困っているようです。



『あー、困った困った。いったい、どうしたら良いんだろうか』

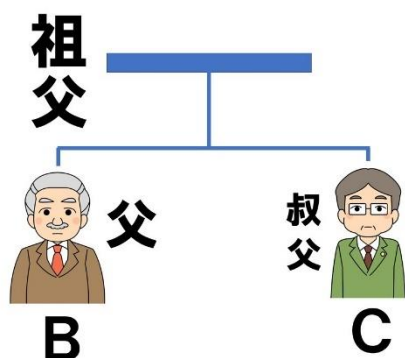


このとき、ちょうど、A君が帰宅しました。

『お父さん、どうかしたの？
とても大変そうだけど』



遺産 分割



『おお、おかえり。いやあ、父さん、ちょっと困っててさ。』

こないだ、おじいちゃん、亡くなっただろう。

あれから2か月くらいたったってということで、弟のCから連絡があつてさ。Cおじさん、わかるだろう。あいつがさ』

『そろそろ遺産分割をしようっていうんだよ。』

遺産分割っていったって、おじいちゃんの遺産なんて、めぼしいものは、我々が住んでいる、この家くらいだろう。

あと、会社の株式なんて、うちは別に上場企業じゃないし、弟のCはまったく会社の経営にはタッチしていないんだから、会社の株式があつたってしょうがないだろ』

家系図は、このようになっていました。

このように、A君のおじいさんがなくなったことで、A君のお父さんのBさんと、その弟のCさんとは、遺産分割協議をする必要がありました。そして、A君のおじいさんは遺言書などを用意していませんでした。

『それでさ、Cのやつ、とにかく、法律通りにやってくれ、法律上、兄弟だから、遺産を全てキッチリ半分ずつにしろ、なんてしつこく言うんだよ。』

でも、この家を半分あげるわけにはいかないし、株式だって、社長のおれが持ってるべきで、経営にまったくタッチしてないCのやつに、渡すわけにもいかないだろ』

『そ、そうなんだ、とっても大変な状況なんだね』



『そうなんだよ、困ったよ』

ブルルルル

『お、電話だ、難しいことはよくわからないから、税理士の先生に相談させてもらうことにしたんだ』



『はい、もしもし、ええー、そ、そ、そんなあ
相続税ってそんなに高いんですか。
遺産には現金がほとんどないので、相続税、
おさめようがないですよ』

10か月

『え、ええー！10か月、たった10ヶ月しか
猶予がないんですか。』

だって、49日とかもあるわけだから、なかなか動き出せなかったし、なんだかんだで、もう3か月たちちゃいましたよ。

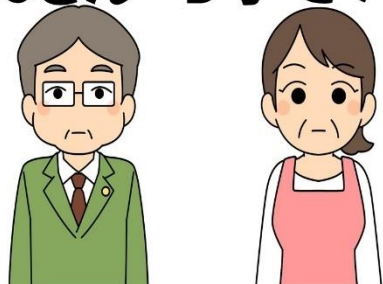
しかも、なんとか相続税のためのお金を作るとしたら、今、妻と息子と住んでる、この家を売らないといけませんよ。そんなに焦って売ったら、安く買い叩かれちゃいますよね。

困ったなー』



『あー困った困った。よし、とりあえず、弟のCのところに行って、今はとにかくどうしようもないことを説明してこよう』

Cさん D子さん



こちらは、Cさんです。CさんはBさんの弟です。

A君にとっては叔父にあたります。

そして、お隣にいるのは、Cさんの奥さんのD子さんです。



『なあ、D子、B兄さん、相当困っていたぞ。D子がとにかく厳しく言えっていうから、言ってみたけど、さすがにちょっとかわいそうじゃないか?』



『あなた、なに甘い事言ってるの。』

あなたは、まったく建設会社にはかかわらせてもらえなくて、ふつうに企業に就職して大変な思いしているんだから、その分、お返ししてもらわなきゃでしょ』



『うーん、まあそうだけどさあ。兄さん、なんだかんだで、いつも節目節目には、おれのこと、今まで、助けてくれたりしたんだよな。』

父さんと大ゲンカしたときなんか、いつもこっそり兄さんが間にはいってくれて助けてくれてさ。それ考えると、その兄さんがあれだけ困ってるんだから、少しは譲ってあげたらどうか?』



『あなた、ふざけないでよ。あたし達だって苦しいながらも必死に生きてるのよ。』

苦しいのはみんな同じよ。それに、相続って、人生で一番大金が手に入る瞬間の一つ、なんていうでしょ。

1円たりとも譲れないわ。あなた、お兄さんと私たち家族、どっちが大事なの。もし、あなたがお兄さんをとるなら、子供を連れて出ていかせてもらうわよ!』



『ちょ、ちょ、待てよ。わかったわかった、お前の言うとおりにするよ。おれにはお前が一番大切だっていつも言ってるだろう。わかってくれよ』

自宅を Cと共有 Cに家賃 を払う

BとCで 株式を 半分ずつ



こうして、Cさんから、1円たりとも譲れないと言われたBさんは困り果ててしまいました。

その結果、Bさんは、自宅をCさんと二人で共有することになり、毎月、Cさんに家賃を支払うことになりました。

また、建設会社のほうは、BさんとCさんが株式を半分ずつ持ち合うことになり、それ以降、Bさんは、Cさんにも会社の経営を逐一報告したり、株主総会を開催して報告したりするなど、さまざまな手続に追われるようになりました。

『は一、弟のCのやつと、奥さんのD子さんが、株主だからって、経営のこと全然わかってないのに、あれこれ口出ししてきて、勝手なことたくさん言うようになって、業績がどんどん落ちちゃったよ。』

やっぱり、経営がわかってないのに、口出しされると、こうなっちゃうんだよなあ』

A君は、こんなお父さんの姿を見て、こう思いました。

『相続って、とても大変なことなんだな。』

僕も、いずれ、この会社を継いで3代目になるかもしれないから、今から勉強しておこう。いったい何の勉強したらいいんだろうか』

A君はインターネットを見ていました。

『へー、ファイナンシャルプランナーっていう仕事があるのか、へー、相続や事業承継の強い味方、そうなんだ、よし、ファイナンシャルプランナーの勉強をしよう』

ファイナンシャル プランナー



相続税 が高い

株式が 分散

こうして、A君は、ファイナンシャルプランナーの勉強をして、めでたく資格をとりました。

そして、社長であるお父さんのBさんにこんな提案をしました。

『お父さん、ぼく、ファイナンシャルプランナーの資格もとれたから、会社で仕事をしながら、同時に、相続や事業承継対策をするよ』

『おお、それはいいな。父さんの時は何も対策していなかったからひどい目にあったから、お前にはこんな目にあってほしくないからな。』

じゃあ、相続・事業承継対策は、全部おまえに任せるからどんどんやってくれ』

『今回、父さんが困ったことの一つ目は、やっぱり、何ととっても、まず、とにかく、相続税額が高くて困ったことだな。相続税って、こんなにかかるとはなあ。もっとかしこく、少額に抑えられないのかな？』

『もう一つ、今回、父さんが困ったことは、会社の株式が分散してしまったことだよ。』

これから少しずつ、父さんが買い戻して、将来的には、全部お前に持たせてやりたいよ。もちろん、お前の弟も、父さんにとっては実の息子だからかわいいけれども、会社は長男のおまえに継がせたいと思ってるから、株式が分散しないように、対策してくれるとありがたいよ』

相続・事業承継対策

生命保険
法定相続人
× 500万
非課税！！

生命保険
相続から
はずれる

相続・
事業承継
対策資金

- ①事業承継 融資
- ②株式
遺留分から除外
- ③自己株式
評価見直し

こうして、A君は、相続・事業承継対策に取り組みました。

A君は、またまた、インターネットを見ていました。

『へー、なるほど、生命保険の保険金は、税務上は、相続税の計算をするときには、法定相続人の数に500万円をかけた金額の合計額分が、非課税になることがあるんだ。

これはとってもお得だな。現金で持っていたら全部課税されちゃって相続税が高くなっちゃうけど、これなら部分的に非課税にできるのか。やったー』

『えっ、しかも、特定の相続人が受取人になっている生命保険の保険金は、民法上は、受取人固有のものになって、相続財産からはずれて、遺産分割手続きとかがいらなくなることがあるんだ。知らなかったなあ』

『それだったら、この生命保険金を、相続・事業承継のための資金にすればいいんだ。そうすれば、公平な遺産分割をするための資金にできるぞ。やったー』

『へー、ほかにも、事業承継の際に受けられる融資とか、自社株式を遺留分算定基礎から除外する合意の制度、自己株式の価値・評価を見直して節税する、とか、いろいろな方法があるんだなあ。

やっぱり、「知ってる」と「得」することって、いっぱいありそうだなあ』

改正 事業承継 税制



『知ってる』
と
『得する』



『あれ、これはなんだろう、「改正事業承継税制」というのがあって、期間限定だったり、いろいろ条件は厳しいけれども、条件をクリアできれば、贈与税や相続税を、猶予してもらえたり、免除してもらえたりするかもしれないんだ！！』

『へー、すごい、こういう制度ができたんだ。勉強になるなあ。この条件は難しそうだけど、チャレンジする価値はあるな』

こうして、A君は、様々な相続・事業承継対策のプランを作りました。

そして、ある日のこと、A君はこれをお父さんのBさんに見せました。

A君は、プランの中身をお父さんに説明しました。

『おお、なるほど、こんな方法があるのか、やっぱり、「知ってる」と「得する」ことって、いっぱいあるんだな。それを痛感したよ』

『それにしても、よく調べてくれたよ。よくやってくれた。本当によくやってくれた。』

よし、これで本業に集中できるな。ありがとうな』

『うん、父さん、僕ももっとがんばるよ！！』

<コメント>

相続・事業承継の一例を、マンガ形式でお伝えしました。

もちろん、ケースバイケースで、いろいろなパターンや流れがあり得るので、一概には言えないことが多いですが、事前になにも対策しなかった場合に比べて、事前にお得な法制度・ルールをしっかりと確認して対策を講じた場合のほうが、不測の事態を防ぎやすくなり、円滑な相続・事業承継をしやすいことが多いと思います。

ただし、この分野の法制度・ルールは改正・変更が多くありますので、最新の情報を確認することを推奨します。